

高齢者の自立を支援する生活支援機器
『ファミリーコミュニケーション』シリーズ 新発売



群馬電機株式会社（代表取締役社長：西村稔）は、高齢者の自立を支援する会話型ロボット『ファミリーコミュニケーション』シリーズを開発し、2018年12月1日（土）よりモニター発売を開始いたしました。

『ファミリーコミュニケーション』シリーズは、録音されたメッセージを定時に再生することで、高齢者が忘れがちな生活動作（服薬、戸締り、火気管理など）の実行を促します。ぬいぐるみに内蔵された音声装置には、15秒間の音声メッセージを10件まで録音し、それぞれに再生時刻を設定することができます。例えば、毎朝7時45分にお孫さまの声で服薬を呼びかけたり、毎晩8時30分に娘さまの声で戸締りを呼びかけたり、夏季には2時間おきに飲水を呼びかけて、熱中症の予防に活用することも。おひとり暮らしや老老世帯の高齢者がつい忘れがちな生活動作を注意喚起することで、高齢者の自立を支援し、遠距離介護をするご家族や介護事業者、近隣住民のひと手間を軽減します。

さらに、音声装置には8歳の男の子の声があらかじめ内蔵されており、「きょうは何日?」「いま何時?」と呼びかけるとその音声を認識し、日にちや時刻をお知らせします。また、「おはよう」「ただいま」など15種類の認識ワードで呼びかけると時間帯や気分によって様々な返事をし、約500通りの会話を楽しむことができます。閉じこもりがちな高齢者に、日常的な発語の機会をつくれます。

ぬいぐるみは日本国内の工房で安全な素材を使用し、熟練の職人が縫製することで、きめ細かく上質な肌触りと耐久性を両立しました。もしもの修理・メンテナンスも万全の体制でサポートします。電源は単3型乾電池を4本使用。通信回線の設定や通信機器との連携は不要のため、通信料金はかかりません。長期間ご活用いただける生活支援機器として、高齢者の自立と介護者の支援に貢献します。

本リリースに関するお問い合わせ先
群馬電機株式会社 BCプロジェクト
担当：小川 健 TEL：0277-73-6083
MAIL：t-ogawa@gunmadenki.co.jp

〈製品概要〉

- 発売日：2018年12月1日
- 価格：19,800円（税抜）（メーカー希望小売価格）
- 製造：音声装置／日本製　ぬいぐるみ／日本製
- 大きさ：幅18cm × 長さ26cm × 高さ15cm（ハリネズミ型）
幅14cm × 長さ28cm × 高さ27cm（柴犬型）
- 重さ：ハリネズミ型510g / 柴犬型480g（乾電池を含まず）
- 音量：最大76dB（バス車内の騒音と同等）
- 電源：単3型アルカリ乾電池×4本
- 電池寿命：1日40分の使用で約1カ月程度
- 素材：音声装置／ABS樹脂ほか　ぬいぐるみ／ポリエステルほか
- 保証期間：1年間

〈特徴〉

- 15秒間の音声メッセージを10件まで録音し、指定時刻に再生
- 「きょうは何日？」「いま何時？」と呼びかけると日時を返答
- 約500通りの音声認識会話を楽しめる
- 通信回線の設定や通信機器との連携は不要のため、通信料金がかからない
- きめ細かく上質な肌触りと耐久性を両立した日本製ぬいぐるみ
- 高度難聴者も聞き取りやすい最大音量76dB

〈一般的な商品との比較〉

	一般的な商品	ファミリーコミュニケーション
音声認識会話	○	○
内蔵メロディ	童謡20～30曲	×
音声録音・再生	×	○
日時の報知	○	○
製造国	中国製	日本製
販売価格	13,500～29,800円	19,800円

〈販売チャネル〉

- 介護用品店
- 百貨店
- インターネット通販

〈会社情報〉

- 会社名：群馬電機株式会社
- 代表者：代表取締役社長 西村 稔
- 所在地：〒376-0101 群馬県みどり市大間々町大間々760番地
- 設立：1968年12月
- TEL：0277-73-2417
- 事業内容：制御用電子基板やリモコン等の設計・製造、店舗向け販促用品の開発・製造

【参考資料】

〈BC プロジェクトとは〉

BC プロジェクトは、弊社の創立 50 周年にあわせて発足した、超高齢社会への貢献を目的とするプロジェクトチームの名称です。電気機械や設計・デザイン、高齢者介護の各分野で経験を重ねた専門家を社内外から結集し、自社が保有する技術にこだわらず、高齢者や支援者から必要とされる製品を企画・開発しています。

〈開発の背景〉



群馬電機株式会社 BC プロジェクト

企画・営業 小川 健

〔取得資格〕

介護支援専門員、介護福祉士、認知症ケア専門士、
社会福祉主事、レクリエーション・インストラクター

東京都の高齢者デイサービスで実務を経験後、認知症高齢者グループホームの副施設長を経て、居宅介護支援事業所の管理者兼ケアマネジャーとして在宅高齢者の支援を担当。専門領域である認知症介護のほか、介護予防や終末期ケア、生活保護、虐待などの様々な事例を通じて経験を培う。また、要介護認定調査員として、延 400 名以上の訪問調査を実施。2017 年に群馬県へ転居後、高齢者支援と介護者支援を両立する福祉用具の開発を志して群馬電機（株）に入社。

前職では、認知症や高次脳機能障害、統合失調症など、行動障害をもつ在宅高齢者の支援を主に担当してまいりました。そして、これまで自力で行えたことができなくなり、自信をなくして閉じこもりがちになる高齢者や、「できるはず」「できてほしい」「できてもらわなければ困る」という思いから、強い口調で老親を叱責するご家族に接してまいりました。そのなかで、高齢者とご家族が前向きな気持ちを持ち、在宅生活を続けることを選択するためには、福祉用具の充実と活用が欠かせないと感じました。

在宅生活を継続するうえで、特に独居や日中独居となる高齢者にとっての大きな課題は、服薬管理でした。薬局に相談をして処方薬を一包化し、服薬カレンダーを使用しても、つい服薬をし忘れて、たまっていく残薬。その総額は全国で年間 400 億円にも達すると試算されています。服薬支援として、遠方に居住するご家族が日に何度も電話をして服薬を促すご家庭もあれば、介護事業者が連絡を取り合い、関係者のうちの誰かが外出の帰りにご自宅へ立ち寄って服薬を促すという事例もありました。

昨今はさまざまな介護ロボットの開発が注目されておりますが、高齢者や支援者が「必要としている製品」と開発メーカーが「つくりたい製品」「つくれそうな製品」との間には、まだまだ溝があると感じます。服薬支援ツールを例にとっても、その多くは画面表示を確認したり、ボタンを押したりという“未経験の動作”を高齢者に要求する製品です。

この『ファミリーコミュニケーション』は、既存の会話型ぬいぐるみや高度な AI を駆使した見守りロボットにない“メッセージ録音・再生”機能により、つい忘れがちな生活動作をご使用者の指定時刻に注意喚起する『生活支援機器』です。音声認識による会話機能はあくまでもオマケであって、呼びかけさえあれば自力で動作ができる高齢者に対して、最大 76 dB の大音量で、服薬や戸締り、火気管理、熱中症予防のための飲水摂取などを注意喚起します。この製品が、独居や老老世帯の高齢者の自立を支え、遠距離介護をするご家族や周囲の支援者の介護軽減につながることを確信しています。